

1. 学生の外国語能力向上に関する取り組み

①外国語能力の到達目標

国際学会等への参加や学術論文の執筆等において、英語をはじめとした外国語の能力向上は必須であることから、本学院所属の学生自身が個人においてそれぞれ外国語運用能力の向上に努めている。

②外国語能力を向上させるために実施する取組

引き続き、学生の国際性を涵養する各種取組を実施していく。

2. 学生の国際性を涵養できた実例

○本学院、国際先端物質科学大学院（AGS）、及びフロンティア化学教育研究センターが連携して実施している「国際連携総合化学プログラム」では、日本学生支援機構の「海外留学支援制度『（協定派遣）及び（協定受入）』」を利用しつつ、海外の大学院等研究機関へ学生を派遣している。特に博士後期課程1年次に海外派遣プログラムに採択された学生はAGS日本人学生と認定し、2年次に研究費を補助するとともに、後述の「総合化学院 Summer School」への参加及び学位論文の英語による執筆を義務付けている。

また、平成29年度より協定受入で本学に留学している学生と本学院在籍生の国際交流を目的とした「CSE（総合化学院）International Student Symposium」を毎年開催している。

○本学院設立時より、「総合化学院 Summer School」を毎年夏に開催している。開催にあたっては、博士後期課程学生が実行委員会を組織し、招待講演者の選定・招へいやスケジュール立案、会計など全てを行うことで、研究能力に加え社会的・職業的に自立する能力も養成している。使用言語は原則英語とし、外国人講師中心の招待講演、学生によるポスター発表及び英語の講演、レクリエーション等を行い、国際性の涵養に努めている。

○海外の大学（AGH 科学技術大学、国立台湾大学、モントリオール大学、南京大学）とダブル・ディグリー・プログラム及びコチュテル・プログラムに関する覚書を締結し、博士後期課程学生はこれらに参加することで両大学から学位を取得することを可能としている。

○本学で展開している「海外ラーニングサテライト事業」を積極的に活用して、本学院担当教員と学生を派遣し、海外大学の教員と国際協働教育を実施している。これまで7大学（南京大学、国立台湾大学、モントリオール大学、ストラスブール大学、チュラロンコン大学、武漢理工大学、アンティオキア大学）で英語授業を開催した。

○「Hokkaido サマーインスティテュート」の実施にあたり、本学院は毎年多くの科目を提供しており、多数の学生が受講している。